

文化振興ビジョン策定検討委員会について

1 開催状況（第1回会議）

開催日時 平成23年8月10日（水）午後3時30分から5時30分まで

開催場所 小田原市役所 大会議室（7階） 一般傍聴者3名

- 内 容
- 1 市長あいさつ
 - 2 委員長・副委員長の選出
 - 3 議題 （1）小田原の課題について（まちづくり／文化面）
（2）文化振興の意義について

2 委員名簿

氏名	選出区分	所属等
◎石塚正孝	学識経験者	JR東海エージェンシー代表取締役社長
鬼木和浩	学識経験者	横浜市文化観光局文化振興課主任調査員
桧森隆一	学識経験者	嘉悦大学副学長／市民ホール基本計画策定 専門委員会委員長
○間瀬勝一	学識経験者	逗子文化プラザホール館長
杉崎宗雲	市民委員	無尽蔵プロジェクト 市民による芸術文化創造
露木清高	市民委員	無尽蔵プロジェクト ものづくり・デザイン・アート
平井太郎	市民委員	無尽蔵プロジェクト ウォーキングタウン小田原
岩城葉子	市民委員	公募
大森充	市民委員	公募
神馬純江	市民委員	公募
山口博	行政	文化部生涯学習課専門監（郷土資料担当）

* ◎は委員長、○は副委員長 区分ごと五十音順で表示

3 主な意見

【小田原の課題について（まちづくり／文化面）】

- ・ 財政が厳しい中、豊かな文化を育てるのは難しい。
- ・ 芸術文化の鑑賞などは東京や横浜に行ってしまう。
- ・ 文化にあまり関心のない人にどのように文化に触れてもらうかが課題と認識している。

- ・ 一般的に文化活動はジャンルごとに縦割りになってしまっており、横串を通すべきである。

【小田原の文化・特長について】

- ・ 小田原は伝統的なまちなので、古いものから近代のものまで幅広く文化が存在する。
- ・ 小田原には、豊かな自然環境、歴史的環境、交通の要所など、その風土と歴史から育まれた生活文化があり、それが人々の中に色濃く残っている。このような生活文化に根付いた心の豊かさやゆとりは文化資産といえるものであり、残していきたい。
- ・ お城だけでなく近代の別邸など新旧の遺産を上手く利用し、また、小田原評定などのマイナスイメージをプラスに変えてく必要がある。

【ビジョン策定に向けた基本的な考え方（想い）について】

- ・ 自宅に小さな絵や花を飾るだけでも、家族や来客とのコミュニケーションのきっかけとなるなど、日常の中でもっと文化芸術に触れる機会があれば、市民の文化の質を上げることができるのではないか。
- ・ 「小田原のまちを豊かにするためにどうするのか」という視点を持たなければならない。
- ・ 文化振興ビジョンとは、「これからこういうまちにしていきたい」という、背景の異なる人々が共通認識として描いていくものである。各分野にわたる政策ビジョンがある中で、文化に関する部分を本委員会で整理していくものと認識している。
- ・ ビジョンにはストーリーが必要であり、生活文化やなりわいの文化、ものづくりといった小田原ならではの要素をビジョンの中でストーリーとして提示する。多様な価値観があるので、複数のストーリーが共存し、市民が皆で共有できるものが良い。
- ・ 生活文化や伝統文化など幅が広いと、ビジョンにどう盛り込んでいくかが課題である。
- ・ ビジョンは作ったから終わりというのではなく、議論を続けることが大切である。

【文化振興（ビジョン）の意義について】

- ・ 文化によって育まれる大切なものの一つは絆であると考えられ、例えば災害時に支え合って生きる人達の背景には一種の文化がある。また、3月に起こった東日本大震災でも芸術文化によって人は勇気づけられ、その果たしてきた役割は大きい。
- ・ 文化は情操教育に必要なものである。
- ・ 文化振興ビジョンは絵に描いた餅ではない。その実現のために施策や事業が実施され、予算が確保されるなど、その根拠となるものである。
- ・ 今の日本の社会に求められているのは、答えのない問題を解決できる人、壁を突破できる力のある人、生き抜く力のある人であり、その人材育成には教育、文化が重要な役割を担う。

4 今後のスケジュール（予定）

	開催日	時 間	場 所	内 容
第 2 回	平成 23 年 9 月 23 日	10 : 00～12 : 00	市役所大会議室	方向性、施策の内容について
第 3 回	平成 23 年 10 月 26 日	15 : 00～17 : 00	市役所大会議室	構成案について
第 4 回	平成 23 年 11 月 25 日	18 : 30～20 : 30	市役所大会議室	素案について
シンポジウム	平成 24 年 3 月頃	未 定	未 定	